

1996年1月1日から12月31までの1年間、インターネット上で行われた万国博覧会「インターネット1996ワールドエキスポポジション」(以下「エキスポ」)

世界の垣根を超えたグローバルビレッジ(地球村)の構築を合い言葉に、村井純氏やカール・マラムッド氏の呼び掛けによって世界80か国以上が参加したネット上の一大イベントです。各国がインターネット上にパビリオンを出展したり、エキスポの高速回線を使用してライブを行ったり、さまざまなイベントが開催され、昨年の本誌「エキスポ通信」でもその様子を毎月レポートしてきました。

今回、このエキスポの軌跡と成果をまとめた本『A World's Fair for the Global Village』がアメリカで刊行され、12月には日本語版も発売されます。このコーナーではインターネット史に残るイベントを記録したこの本の見どころを紹介します。



96年1月8日にラフォーレ原宿で行われた開会式。(以下写真は同書より)

11月22～24日に恵比寿ガーデンホールで行われたネットワークを使った演奏会「ブレインオペラ」。



8月28日に渋谷オーチャードホールで行われた坂本龍一インターネットライブの楽屋で。



12月8日に神戸で開催されたエキスポクロージングセレモニー。

ポイント1

世界的なイベントとなった
エキスポの貴重なドキュメント

世界80か国以上が参加したこのイベントの軌跡をまとめた貴重な記録集。エキスポの創始者カール・マラムッド氏が語るインターネットの理想を描いた記念碑的な書籍。

ポイント2

坂本龍一のライブなどを収録したAUDIO CDとエキスポのコンテンツを収録したCD-ROM付き



AUDIO CDには、坂本龍一のライブパフォーマンスとオリジナル曲を収録。CD-ROMには、日本テーマ館「センソリウム」ほか、各コンテンツやエキスポ運営者のインタビューなど、ほかでは見られないコンテンツを完全収録。

ポイント3

500点を超えるカラー写真でエキスポの様子を再現

世界各地での活動の様子を伝える500点以上の写真を掲載。エキスポのサイトの大半は消失しているため、これらの写真は当時の活動状況が分かる貴重な記録となるだろう。

ポイント4

インプレスダイレクトで
先着100名に豪華特典が!

インプレスが運営するオンラインブックショップ「インプレスダイレクト」(<http://www.ips.co.jp/>)にて本書をお買い求めの方先着100名には豪華特典付き。詳しくはホームページで。

インターネット上の万博
「インターネット1996ワールドエキスポポジション」
の活動が本になった!

A World's Fair FOR THE GLOBAL VILLAGE

エキスポ本

「インターネットエキスポの軌跡」
12月2日発売!

この本の詳細は、<http://home.impress.co.jp/books/expo/index.htm>まで。

世界のインターネット環境を 飛躍的に発展させたエキスポ

本誌：昨年のエキスポを振り返ってみて、その成果がどのような点に見られたか、エキスポの意義はどのような点にあったか、お聞かせください。

カール：エキスポ開催前の段階では、企業がインターネット利用を希望しても、インターネットサービス事業者はそれに対応できる高速サービスを提供できる状況にありませんでした。しかし、エキスポで使用されたアメリカとの高速回線に刺激され、設備投資を急いだことで高速回線サービスが実現されたのです。

村井：エキスポでは、インターネット利用に際してのコンテンツやアプリケーションの充実という点に力が注がれました。96年には人々の関心の的はインターネットの接続性だったのに、エキスポ終了後の97年には、確立された接続性の上で何をどう展開していくかということに移ってきました。エキスポで行われた意欲的なコンテンツ作りへの取り組みやウェブデザイナーの要求にも応えられる高速回線の整備がもたらした影響といってよいでしょう。

カール：エキスポでは、村井先生のようにルーターや回線などのインフラ整備に関わってきた方がアプリケーション面に意義を感じ、逆にアプリケーション面に関わってきた私がインフラ面の充実で意義を感じるといってもいいかもしれません。

えるような相反する作用が働きました。エキスポはこのようにインターネットに対する人々の見方を変えました。

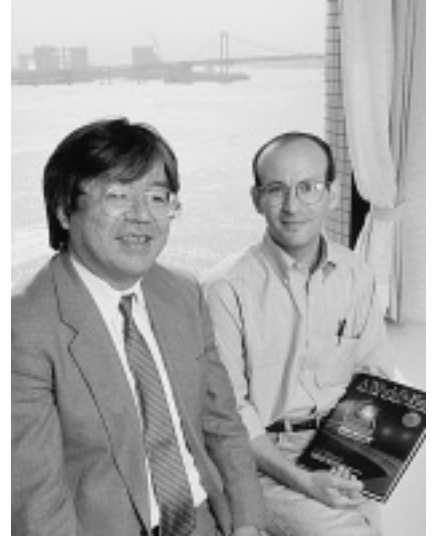
村井：日本のインターネットのインフラ整備に10年間取り組んできて感じたことは、アメリカとは事情が大いに異なるということです。法制度、文化、それに言語も違いますから、アメリカのものをそっくり日本に持ち込むことはできません。インターネットのインフラ整備はそれぞれの国で独自に取り組んでいかねばならないものです。エキスポをきっかけに、各国がそれぞれの実情に合った形でインフラ整備を進めていったのはとても興味深いことでした。

「インターネットのエキスポだから世界的にもオープンなものに」というコンセプトは当初なかなか理解してもらえませんでした。時間が経つにつれて理解されるようになりました。日本でも、経済、教育、通信制度などにインターネットを適合させなければならぬ一方、制度自体をインターネットに適合するようなものにならなければなりません。

限界に達しつつある今の日本にとって、インターネットはグローバルな環境に適応するためのツールとして重要な意味を持つでしょう。

本誌：エキスポの活動を記録したこの本はどのような意味を持っているのでしょうか。

カール：世界第2位の経済大国である日本が今後も成長し続けていくためには、情報通信分野の発展は無視できません。これまでの目覚ましい変化にも増して、インターネットの世界における進展の速さについていけるかどうかが肝心です。



私のこの本を日本の産業界、並びに政界のリーダーの方々、インターネットをめぐる戦略や政策決定の参考にしていただくことを期待します。エキスポ自体は非営利のイベントでしたが、インターネット関連の大きなビジネスが多数生まれました。この本の中にはインターネット世界の環境変化にすばやく対応できる、柔軟なビジネスのモデル例が提示されています。

これは世界80か国が参加した96年の大イベントの記録であり、情報改革最前線のレポートです。タイムカプセルのように、年月を経てもこの本を開くことによって、当時どのような取り組みがなされたのかを知ることができます。平易な言葉で書くことを念頭におき、写真や図も豊富に取り入れて気軽に読んでもらえるものに仕上げました。

村井：この本には日本での活動も多く紹介されています。96年は日本のインターネットの歴史にとっても非常に意義のある年でした。むろん、エキスポでは失敗も数々ありましたが、今ではその経験がわが国のインターネットの発展に十分生かされており、貴重な経験になったと思っています。

また、デジタル技術が世界を大きく変えた年に起きた画期的なイベントの記録集として、いかに変革がなされたかの方法論も記されています。これは多くの人が今まさに学ぶべきことなのです。長く楽しめる読み物であるとともに、現代に生きる人々にとって重要なメッセージを含んでいるので、ぜひ読んでみてください。



村井 純 (むらい・じゅん)
慶應義塾大学環境情報学部教授。エキスポでは日本組織委員会実行委員長を務める。『A World's Fair for the Global Village』の監訳を担当。



カール・マラムッド
エキスポの創設者。『A World's Fair for the Global Village』の著者。現在は慶應義塾大学SFC研究所プロジェクト教授として日本に滞在中。

初版限定
3,000部
シリアル
ナンバー入り

『A World's Fair for the Global Village---インターネットエキスポの軌跡』インプレス刊(1997)
定価(本体8,500円+税) A4変形・上製本
312ページ CD-ROM&AUDIO CD付き
12月2日より全国書店およびインプレスダイレクト
(http://www.ips.co.jp/)にて販売





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp